

コースコード：DO-SREP

税込価格：264,000円 (税抜価格：240,000円)

日数：3日間

トレーニング内容

SRE (Site Reliability Engineering) Practitionerトレーニングでは、組織内のサービスを経済的かつ信頼性の高い方法で拡張する方法を紹介します。

設計 / 自動化 / クローズドループ修復による回復力の構築に向けて、アジリティ / 部門間コラボレーション / サービス健全性の透明性などを向上させるための戦略を探ります。

本トレーニングでは、実際のシナリオやケースストーリーを用いて、信頼性に関わる組織全体の人々を巻き込むための実践手法 / 方法論 / ツールを習得することを目的としています。

トレーニング修了後には、組織の状況に合わせたSREモデルの導入 / 分散システムにおける高度な可観測性の構築 / 設計による回復力の構築 / SREの実践による効果的なインシデント対応など、実務上で活用可能なスキルを習得できます。

SREの主要な情報源を活用し、SRE分野のソートリーダーたちと関わり、SREを採用している組織と協力して実際のベストプラクティスを抽出することによって開発された本トレーニングは、SREの導入を始めるために必要な、主要原則と実践方法を学べるよう設計されています。

本トレーニングは「Site Reliability Engineering Practitioner」認定試験に合格するための基礎となります。

ここに注目!!

講義言語、テキスト共に日本語で実施しています。

対象回限定で受講料が最大30%OFFになるキャンペーンを実施中！

詳細は [こちら](#)

ワンポイントアドバイス

本コースはPMI®のPDU対象コースです(内訳はページ上部にてご確認ください)。

また、本コースは講義言語、テキスト共に日本語で実施しています。

再受験費用を含んだTake²

オプションをつけることも可能です。Take²オプションについて詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

受講対象者

このコースの受講対象者は次の通りです。

- ・ 信頼性向上への取り組みを始めた方、または主導している方

- ・現代のITリーダーシップや組織変革のアプローチに興味のある方

前提条件

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

SRE Practitionerコース受講と認定試験受験の前に、DevOps Institute認定教育パートナーのSRE Foundationコースを受講し、SRE Foundationの認定を受けることが強く推奨されます。
一般的なSREの用語、概念、原則の理解や知識、関連する実務経験があることが推奨されます。
DevOps InstituteのSRE Foundation認定は、SRE Practitioner試験の前提条件です。

下記のコースを受講済み、または同等の知識を有する方

[Site Reliability Engineering \(SRE\) Foundation](#) 任意、強く推奨

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

以下の学習目標の達成を目指します。

- ・SREの文化を組織内で成功させるための実践的な視点の獲得
- ・SREの基本原則とアンチパターンの観点から見たSREの定義およびアンチパターンを回避するために意識すべき事柄の理解
- ・SRE導入による組織への影響の理解
- ・分散エコシステムにおけるSLIとSLOの技術習得、イノベーションとリスク回避のためのエラーバジェットの使用方法の拡張
- ・分散型ゼロトラスト環境における、設計によるセキュリティとレジリエンスの構築
- ・フルスタックの可観測性と分散トレースの実装方法、可観測性駆動型の開発文化を実現方法の理解
- ・AIを活用したデータのキュレーションによる、リアクティブなインシデント管理からプロアクティブで予測的なインシデント管理への移行方法の理解
- ・DataOpsを利用したクリーンなデータリネージの構築方法の理解
- ・SRE文化の一貫性と予測可能性を構築する上で、プラットフォームエンジニアリングが重要な理由の理解
- ・実践的なカオスエンジニアリングの実践
- ・インシデントコマンドのフレームワークに基づくSREの重大インシデント対応責任と、管理されていないインシデントの分析例の理解
- ・SREがDevOpsの最も純粋な実装だと考えられる理由についての視点の獲得
- ・SREの実行モデルの理解
- ・SREの役割の理解、信頼性が全員の問題である理由の理解
- ・SRE成功事例の教訓の理解

アウトライン

SREのアンチパターン

SREの原則と実践（復習）

SREの誤解とアンチパターン

SLOは顧客幸福の代理人である

SLOで何が変わったか？

SLI設定のためにシステム境界を特定することの重要性

ペロシティと安定性の議論を超えたエラーバジェットの使い方

安全で信頼性の高いシステムの構築

非抽象的な大規模システム設計

耐障害設計のパターン

セキュリティのための設計

レジリエンス/スケーラビリティ/パフォーマンス/可用性/信頼性のための設計

フルスタックのオブザーバビリティ

現代のアプリケーションの複雑さ

オブザーバビリティ

モニタリングとテレメトリー

プラットフォームエンジニアリングとAIOpsの活用

プラットフォーム主導の視点

AIOpsによるレジリエンス向上と、DataOpsがどのようにそれを支援するか

AIOpsの実装と測定

SREとインシデント対応管理

インシデント対応におけるSREの主な責務

インシデント対応のパターン

AI/MLによるインシデント管理の改善

カオスエンジニアリング

現代のシステムの複雑さ

カオスエンジニアリング

セキュリティのためのカオスエンジニアリング

SREはDevOpsの一形態である

SREの主要原則

成功のための指標

SREの実践への変革

最後に（課題および解答例の配付）

非抽象的な大規模システム設計 - 容量計画

Gremlinのインストルメンテーション